

九州朝日放送番組審議会議事概要（3月分）

第601回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成30年3月19日（月） 午後3時30分～4時50分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 7名</p> <p>（出席委員） 古宮 洋二 委員長 野田 幸之輔 副委員長 井手 雅春 委員 戸田 康一郎 委員 守田 有理子 委員 鶴 利絵 委員 池田 勝 委員</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 和氣 靖 常務取締役 二木 清彦 取締役編成制作局長 清水 透 ラジオ局長 園田 哲也 報道局長 白井 賢一郎 東京支社 テレビ編成部 プロデューサー 山田 利宣</p> <p>番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長 奥園 徹 番組審議会事務局員（視聴者・広報室） 松永 俊郎</p>
議題	<p>議題 テレビ番組「福岡おかえり旅行社」 放送日：2017年12月15日（金）よる11時15分～0時15分</p> <p>報告事項 1. 平成30年3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況 2. 平成30年2月 視聴者・聴取者応答状況 3. 次回 平成30年4月度（第602回）審議会日程 4月16日（月）午後3時30分～開催 <課題> テレビ番組「福岡恋愛白書13 キミの世界の向こう側」 放送日時：2018年3月23日（金）深夜0：25～1：25 4. その他</p>
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲストにとっておきの帰省旅をプロデュースすることで、ゲストを紹介する一方、ゲストにまつわる美味しいお店なども紹介する面白い仕掛けの番組だった。福岡の人も、福岡を離れた人も懐かしさを感じることができる有意義な番組だった。 ○最近、東京の芸能人が福岡を紹介する番組が増えている印象があるが、福岡出身の芸能人に「とおきの帰省旅をプロデュースする」という少し異なった視点で制作されていたため、視聴者を引き付け、週末の夜にリラックスして見ることができの良い番組だった。 ○今回のゲスト板谷由夏さんは、自然な博多弁とおおげさではないリアクション、気さくな雰囲気でもとても好感が持てた。今回は板谷さんのストーリーと自然な振る舞いで素敵な番組に仕上がっていたが、他の方がゲストだとどんな番組になるのだろうかと続編を期待できる内容だった。 ○板谷さんのモデル時代の挫折や女優に転じた経緯に加え、様々な思い出との接触から板谷さんの素顔に迫る場面では、自分の中学時代を思い出したくなるような気持ちになった。離れてしまったから分かる福岡の愛を感じることができた番組だった。 ○添乗員を務めたバンクブーの黒瀬純さんの進行とアニメでなじみ深い緒方賢一さんのナレーションは大変良かった。全面的に番組を受け入れてしまうに十分な配役で、改めて自らの「福岡好き」を自覚した。 <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回目のゲストが板谷由夏さんと、ある意味で福岡出身の芸能人としては定番ではない方だったので、制作サイドの何らかの意図があったのか疑問になった。 ○福岡を離れた人で、かつゲストと同世代の視聴者は「懐かしい」と感じるかもしれないが、そうではない福岡に住んでいる人にとっては「日常」でもあり、どういう方をターゲットに制作された番組なのかと疑問に思った。 ○番組冒頭にあった野間の場合は、ゲスト板谷さんがあまりに幼い頃に過ごした場所でエピソードも乏しく冗長な印象を受けた。導入部分として必要と判断したのかもしれないが、割愛してもよかったのではないかと感じた。 ○楽しめたし、非常に面白い番組だったが、福岡の出身ではない自分にとって「懐かしい」というより福岡出身者のソウルフルなものを新たに知れた側面が非常に多かった番組だった。番組が見せたかったのは福岡に対する懐かしさなのか、福岡の新鮮さなのか、タレントの個性を引き出したかったのか分かりづらかった。 <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○金曜日深夜の放送枠でいろいろなトライアルを展開するなか、東京支社で番組制作を行ってみた。元ドオーモのプロデューサーと東京のプロダクション、タレントさんが一緒に取り組んで制作にあたったのが今回の「福岡おかえり旅行社」。視聴率は良かったが、今後シリーズ化するかどうかは未定。 ○「番組が見せたかったのは福岡に対する懐かしさなのか、福岡の新鮮さなのか、タレントの個性を引き出したかったのか分かりづらかった」というご指摘があったが、制作側としてはそれらの全てを見せて、多面的にゆっくりと1時間の番組を楽しんでいただきたかった。 ○今回は東京の制作会社と番組を制作したが、できるだけ福岡出身のスタッフを集めて、福岡に昔いた人や今も福岡にいる人が見ても違和感がないように配慮した。 ○板谷さんを起用したのは、板谷さんに福岡出身というイメージがないから。福岡の人としてあまり知られていないからこそエピソードを掘り出しやすいたと考えた。 ○普段はなかなかプライベートを見せない女優の板谷さんだが、「今なら地元の番組に出る機会ではないか」として板谷さんご自身に理解を頂きご出演に至った。そんな彼女の人となりや素顔を少しでも見せたかったが、十分に引き出しきれない部分もあった。ローカル局と一流女優の初の取り組みで「出来たこと」「出来なかったこと」があったと思っている。 <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p>